

相談支援係
072-941-3365

情報チーム
072-943-5785

研究研修係
072-943-5784

教育センター
Web page は
こちらから



初任者研修⑥学校 ICT 研修

情報漏えい事故の発生状況 まとめ

- ◆成績処理を行う学期末の7月、12月に事故が多く発生しました。
- ◆漏えい経路・媒体の大半は「書類」「電子メール」で、全体の約62%を占めました。
- ◆事故の種類は「紛失・置き忘れ」「誤送信」「誤配布」で、全体の約85%を占めました。
- ◆「規定違反」を伴う事故が、全体の約8%を占めました。

事故が発生しやすい時期や媒体、原因を把握した上で、効果的な対策を取りましょう。

令和5年7月20日（木）午後3時～午後5時（中学校）、令和5年7月26日（水）午後3時～午後5時（小学校）に初任者研修⑥学校 ICT 研修を行いました。講師は本センター山野元気指導主事で研修テーマは「1. 情報モラル・情報セキュリティ 2. 校内 ICT 機器等について」です。

1. 4 著作権について

改正著作権法第35条は、「学校その他の教育機関」で「教育を担任する者」と「授業を受ける者」に対して、「授業の過程」で著作物を無許諾・無償で複製すること、無許諾・無償又は補償金で公衆送信（「授業目的公衆送信」）すること、無許諾・無償で公に伝達することを認めています。

↑ 研修で使ったスライド資料 →

<受講者感想>

- ・グループでの話し合いや実践的な端末の練習など大変分かりやすかった。子どもたちはよりインターネットの活用が重要な力となってくると思う。そのため、教える側の教師が理解を深めなければと思った。今回学習した内容を2学期から実践していきたいと思う。特に ICT をどの場面で使うのが効果的なのか考えていきたい。
- ・個人情報取り扱いについて、意識が薄いことによって漏洩してしまうリスクがあるということを理解することができた。日常業務の中でも、自分が想像していた以上に、危険が潜んでいるということを知り、多くの個人情報を扱う立場にあるということをおぼろげに感じました。
- ・体験型の講義だったので、とても分かりやすかった。2学期から ICT 活用した授業を積極的に行いたいと思っていたので、今日の研修内容は役立ちそうだ。

初任者研修⑦支援教育



令和5年7月24日（月）午後2時～午後5時に初任者研修⑦支援教育を行いました。講師は臨床心理士・学校心理士・特別支援教育士の庄司真人さんで、テーマは「支援教育の在り方と子ども理解」です。

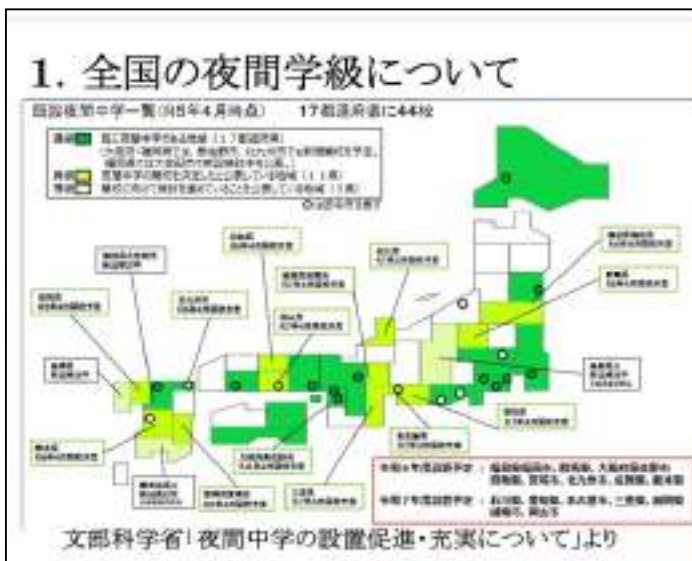
← 研修で使用したスライド資料

<受講者感想>

- ・日頃向き合っている子どもたちを思い浮かべながら話を聞くことができた。支援学級で取り組んでいることへの後押しをしてもらったような気がする。子どもたち一人ひとりの味をいろいろとひきだしていけるように、協力・共有していくことが大切だと感じた。
- ・子ども一人ひとりの個性を受け入れ、認めることの重要性を学ぶことができた。特に、トラブル万歳論や適度なストレスはスパイスといった、何事にも前向きに向き合う姿勢や、二つの視点で物事を考えることが今の自分には足りていないと感じ、心に響いた。これからは目の前のことだけでなく、先を見据え、広い視野で物事を考えられるよう取り組んでいきたい。
- ・支援が必要な児童の感覚になってみることで、焦りや不安な気持ちを実感することができ、これからの指導や支援において、より丁寧に行っていく必要があると感じた。また、児童の行動を良い、悪いだけではなく、背景や気持ち、前後の関係などより多角的に見て指導をしていくことの大切さがよく分かった。

初任者研修⑧

令和5年7月25日（火）午前9時30分～午後0時30分に初任者研修⑧人権について考える2・夜間学級について・「さわやかルーム」についての研修を行いました。講師は人権教育課中井良太指導主事、学校教育推進課大畑直指導主事、本センター吉原佑輔主査です。研修テーマは人権教育課から「人権について考える2ー地域に学ぶー八尾における人権教育の現状と課題」、学校教育推進課から「夜間学級について」、教育センターから「教育支援センター『さわやかルーム』について」です。



研修で使用したスライド資料

<受講者感想>

- 「人権について考える2ー地域に学ぶー八尾における人権教育の現状と課題」について
 - ・自分自身の人権感覚を常にアップデートし、差別事象が起こらないように、クラス・学年・学校で取り組んでいける体制作りが不可欠だ。
 - ・人権を守るためには正しい知識が必要であるが、知識だけでは差別はなくならないように感じる。人権尊重を自分事として受け止め、実践していかななくてはならない。

○「夜間学級について」

- ・様々な理由や背景で義務教育を修了していない人たちにとって、学び直しができる環境があることは、将来の選択肢を広げるという意味においてとても重要だと感じた。年齢・性別・国籍の違う生徒が共に学ぶ姿は、学習の本来の意味について考えさせられる。
- ・学校へ通って毎日学習をするというのは「当たり前」ではないということがよく分かった。教師としてかかわる側も、「いい授業をするんだ」という覚悟が必要である。

○「教育支援センター『さわやかルーム』について」

- ・私は今1年生の副担で、生徒たちは新しい環境にも徐々に慣れてきたところだと思う。夏季休業明けには、不登校にならないように未然防止に努めたいと思う。この1年、自分が担任になった時に不登校などの課題に対応するため、学校内外の研修でしっかり学びたい。
- ・不登校は誰でもなる可能性があるものだと考えている。未然防止にむけた取り組みを意識して2学期のクラス運営や教育活動を行っていきたい。

情報モラルセキュリティ研修（web開催）

令和5年7月25日（火）午後3時30分～午後5時と令和5年7月31日（月）午後3時30分～午後5時に情報モラルセキュリティ研修をwebリアルタイムで行いました。それぞれの研修で、前半の講師は広島県教科用図書販売株式会社好本仁朗さんで研修テーマは「事例で学ぶNETモラルの活用方法」です。後半の講師は本センター山野元気指導主事で「『事例で学ぶNETモラル』ソフトの具体的な活用について」のテーマでグループワークを中心に行いました。

<受講者感想>

- ・情報モラル教育について改めて考えさせられました。子どもたちについても、しっかりと責任を持つことと、便利な反面危険が潜んでいることなど、十分勉強をしたうえで使用することが大切であるということを知りたい。
- ・SNSなどのトラブルについて教師ができることが少ないのではないかと感じていたが、今回の研修で学んだ内容を日常的に、生徒に事前に指導し未然防止に努めることが大切だと感じた。小学校・中学校の段階で個人の情報端末を手にするのが当たり前になった今だからこそ、大人になってからも通用するメディアリテラシーを身に付け続けていってほしいと思う。
- ・様々な技術が発展していくなかで、使用者のモラルは育っていないように感じます。ネットが当たり前の世の中で生きていく児童のためにも、ネットモラル等の学習は必須であると改めて思った。

初任者研修⑨

令和5年7月27日（木）午前9時30分～午後0時30分に初任者研修⑨授業づくり④理論①を行いました。講師は本センター鈴木雅博指導主事で研修テーマは「学習評価を生かした授業づくり[理論①]」です。

教職員研修について

自己改善力

急激に変化する時代の中で育むべき資質・能力
■社会の在り方が劇的に変わる「Society5.0時代」の到来
■新型コロナウイルスの感染拡大など先行き不透明な「予測困難な時代」

一人一人の子どもたちが、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが必要

「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(答申)

令和3年1月26日

研修で使ったスライド資料

<受講者感想>

- ・毎時間の授業で子どもにつけさせたい力をより明確にして、その目標に向かうことができているかをしっかりとみていかなければならないということ。また、子どもが学校で学んでいる際に見る点(発言・眩き)と子どもが帰ってから見る点(ノートの意見・振り返り)を分けてしっかり見ていくことも大切であると思った。
- ・目の前にいる児童の実態に合わせて評価基準を作り、そこから逆算して授業を作っていく。そうすることで指導と評価のずれが出ないように意識していきたい。また、評価基準については児童にも示しておくことで、児童が見通しを持つことができるようになると思った。
- ・単元全体を見通して、授業計画と同時に評価計画を立てるということを大切にしたいと考えた。評価をする中で、子どもの実態をとらえ、より子どもが学びを深められるような授業になるように改善を行いながら授業づくりを進めていきたいと思った。また、3つの観点について、計画の中でバランスよく評価をすることができるように意識しながら教材研究を行ってほしいと思う。

初任者研修⑩新規事務職員研修⑨

令和5年7月27日（木）午後2時～午後5時に初任者研修⑩事務職員研修⑨の研修を行いました。研修講師は人権教育課中井良太指導主事でテーマは「人権について考える③ー児童虐待防止ー」を行いました。後半の講師は常磐会学園大学佐谷力教授でテーマは「児童生徒理解を深めるために1ー児童生徒・保護者とのかかわり方ー」です。

<受講者感想>

○「人権について考える③ー児童虐待防止ー」

- ・教師は児童虐待を早期に発見しやすい立場にあることを自覚し、常に子どもの様子の変化を見逃さないようにしなければならないと改めて思った。また、感じたことを他の教員・管理職と共有することが大切だと思う。
- ・日頃からの生徒の観察が非常に重要であると感じた。また、保護者とも家庭訪問や懇談などの機会を十分に活用し、また児童ともできるだけ接するようにして何かの異変に気付くことができるのではないかなと思う。
- ・児童が困っているときに相談しやすいよう、普段から信頼関係を築いておくことも重要だ。

○「児童生徒理解を深めるために1ー児童生徒・保護者とのかかわり方ー」

- ・自分がぼんやりと意識していることが明確に言葉になって提示されたのではっとする時間だった。うなずき、くりかえし共感し、相手のことを受容していきたい。そうすることで相手とよりよい信頼関係を結ぶことができることがはっきりとわかった。また、最後のほめあいの時間がよかった。1学期の疲れが少し和らいた。
- ・生徒が話しやすいような傾聴の姿勢をとっていかうと思った。保護者からの電話でもどのような言葉を使っていくと良いのか具体的に学ぶことができた。
- ・「研修の終わりが実践の始まり」との言葉通り、明日から実践していきたい。

10年経験者研修②

OECD（経済協力開発機構）が示す 「教育とスキルの未来2030プロジェクト」 のこれからの学びの方向性

レベル	授業の形態
0.	沈黙
1.	繰り返し
2.	お飾り
3.	形式主義・形だけの平等
4.	子どもに特定の役割が与えられ、伝えられるだけ
5.	子どもからの意見を基に教師が導く
6.	意思決定を教師・子どもで共有しながら、教師が導く
7.	子どもが主導し、方向性を定める
8.	子どもが主導し、教師とともに意思決定を共有する

令和5年7月28日（金）午後3時～午後5時に10年経験者研修②を行いました。講師は本センター山野元気指導主事で、研修テーマは授業づくり「授業改善の推進【理論】ー今求められている授業ー」です。

← 研修で使用したスライド資料

<受講者感想>

- ・授業づくりにおいて、何を大切にし、どう改善していけばいいのか、改めて深く考えることができた。
 - ・指導案を作るにあたって、目の前の子どもをイメージしながら、もう一度作り直したいと思った。
- ・授業の作り方や進め方について、他の学校の先生との交流ができたことは大きかった。自分のやり方の修正点、優れた点などが明らかになった。
 - ・自分の経験年数に応じた指導があると感じた。自分より経験年数の少ない先生からの質問に対しても自信を持って応えられるように研究を重ねたいと思った。また、同じ10年目の先生と話したり、検討したりすることで刺激を受けた。
 - ・子どもの主体性を大切にしていけるように、授業改善していきたいと思った。2学期から、

今までの自分のかたちにもかかわらず、ICT を積極的に活用していきたいと思った。

「体育」授業づくり研修



令和5年7月31日(月)午前9時30分～午前11時30分に「体育」授業づくり研修を西山本小学校をお借りして行いました。講師は大阪体育大学小林博隆准教授で、研修テーマは「主体的、対話的で深い学びの実現に向けた授業づくりのポイント～体づくり運動を例に子どもたちが体を動かす楽しさを味わえる授業を構想する～」です。

← 研修で使用したスライド資料

<受講者感想>

- 少しずつ達成するレベルを上げていくのがおもしろかった。子どもたちに考えさせながら、というのが一番のポイントだったと思う。
- 考える中で、チームで協力していけるのが素敵だなと思った。
- 児童が自然と話したくなる、動かしたくなる、工夫したくなる場作りや仕掛けが学べました。
- 体育科の授業づくりの在り方について学びました。実際に体を動かしながら学ぶことで、感覚が掴みやすく楽しく学ぶことができた。特に、ラダーの利用は授業の導入など、アイスブレイクにも使えると感じた。
- 指示を口頭や笛で示す以外にも、小太鼓のような道具を使うことに面白さを感じた。太鼓の音だけで、集まったり活動を始めたり、一工夫を入れることでこんなにもレパートリーを増やすことができるのだと学ぶことができた。特に、活動内容においてはグループで目標達成させるような活動の仕方を参考にさせていただきたいと思った。体を動かすことだけにとどまらず、話し合いの場面が豊富であり、学びをチームで深めることのできた活動だった。

「図画工作」「美術」授業づくり研修



令和5年7月31日(月)午後2時～午後4時に「図画工作」「美術」授業づくり研修を行いました。講師は大阪大谷大学狩谷潤也講師で、研修テーマは「図画工作科・美術科の指導と評価」です。

← 研修で使用したスライド資料

<受講者感想>

- 共同作品の楽しさが実際に取り組んでみることで感じられた。子どもたちの頑張りをどのように展示していくのか考えることが重要だと気付いた。

- ・身近にある材料を使って楽しい作品を作る方法を教えていただけてよかった。今日の研修を受講したことで、2学期以降の評価方法をよりよく検討していきたいと思う。
- ・主体性の評価が難しいと感じているが、今日の講義で学習の調整と粘り強い取り組みのバランスで評価することが分かりました。自分の作品について説明をさせることも大切だとわかりました。

初任者研修⑪「租税教育」

租税教育の目的

- ・納税の義務
- ・租税教育の目的
- ・租税教育の充実
- ・学校教育との関係

令和5年8月1日（火）午前9時30分～午前10時15分に初任者研修⑪「租税教育」を行いました。講師は堺税務署税務広報広聴官義本幸誠さんで、研修テーマは「租税教育について」です。

← 研修に使用したスライド資料の一部

<受講者感想>

- ・自分たちが納めている税金の活用実態を学んだ。様々な公共サービスなど社会インフラを成立させるためには必要不可欠であることを理解した。子どもにも伝えていきたい。
- ・消費税について理解を深めることができた。また、税の累進性と逆進性の課題についても理解できた。今後も公平感を大事にした税の徴収が必要であることは、生徒にも伝えていきたいと感じた。
- ・子どもにとって身近に感じられない税金について、「租税教室」でわかりやすく教えてもらえることがわかった。今後自分のクラスでも実施していただきたい。
- ・実際に1億というお金（おもちゃ）を用意することで興味も沸き、何より想像ではわかりにくい部分のはっきりと目に見えていたので、体験型の授業の大事さを感じた。
- ・公立学校で児童生徒1人につき年間約100万円が税金から賄われているのは初めて知った。その学校教育に自分が携わっているので身が引き締まる思いがした。

初任者研修⑫「非認知能力」

令和5年8月1日（火）午前10時30分～午後0時30分に初任者研修⑫「非認知能力」を行いました。講師はBYBS非認知能力育児コーチ東口るみさんで、研修テーマは「これからの時代に必要な非認知能力」です。

<受講者感想>

- ・非認知能力を伸ばすことで、認知能力も自然と身につくと聞いて、確かにそうだと感じました。生徒の自己肯定感、自己効力感を上げることが、生徒の成長に大きくプラスになると思う。
- ・生徒の非認知能力を向上させるためには何が必要なのかを考え、普段の接し方だけでなく、授業内容等も考え直していきたい。特に自己肯定感を高めることが必要なので、できなかった、足りなかったことを指摘するばかりではなく、できたことをしっかりと褒めていきたい。
- ・児童に非認知能力を身につけさせるためには、まず自分が非認知能力について知り、しっかり身につけることが大切であると思った。そして、児童たちにも非認知能力を意識して指導し、ポジティブに生きること、視点を多く持つことの良さを伝えていきたいと思った。
- ・「自己肯定感が高い・低い」という言葉を最近よく聞く。私自身、失敗を恐れていたり、迷って結局行動することが出来ない場面や落ち込んだりすることも多いので、自己肯定感が低い方だと前から感じていたけれど、自己肯定感というものの本来の意味について学ぶ事が出

来てよかった。

- 非認知能力は点数などによって分かりやすい形での評価はできませんが、自己肯定感や自己効力感は生きていくうえでも重要度が高いものだと思います。自分の存在を肯定的にとらえられたり、「自分ならやれる」と思えたりすることは物事を前向きにとらえたり、自分自身のモチベーションを高く維持したりすることにつながるだろうと思う。2学期以降の授業や学級運営のなかでリフレーミングなど今回の研修で学んだことを活用できたらと思う。

初任者研修⑫「防災教育」

八尾市に起こる可能性がある災害

- | | |
|-------|----------|
| 1 地震 | 3 大規模火災 |
| 2 風水害 | 4 危険物等災害 |
| | 5 放射線災害 |
| | 6 交通災害 |

令和5年8月1日(火)午後2時～午後3時に初任者研修⑫「防災教育」を行いました。講師は危機管理課の松野潤(ひろし)課長補佐で、研修テーマは「八尾市で想定される災害及び災害時の対応について」です。

← 研修で使用したスライド資料

<受講者感想>

- 防災について前から興味があり、ボランティアにも参加したことがあるので、今日防災について改めて学べてよかった。南海トラフが起こった場合、八尾市にどれぐらいの被害があるのかについて、家庭科の住居の単元でも扱ったので、振り返ることが出来た。地震に限らず、台風や土砂災害などを含めた災害は、いつどこで起こるかわからないことなので、自分自身が常に冷静に対応ができるように、これからも防災について心掛けようと思った。
- 私は、大阪府・八尾市の出身ではないが、自分自身・児童の命を守るためにも、周辺の地理やハザードマップをよく確認しなければならないと感じた。
- 子どもたちを安全に避難させるために、自校の避難経路をもう一度確認しておこうと思った。学校でも引き渡し訓練や避難訓練があり、実際に大雨警報が出た際には保護者への引き渡しも行った。いつ災害が起きても対応できるように、私たちも、子どもたちも準備しておかなければいけないとわかりました。
- 実際に災害が起きると混乱することが容易に想像できるので、そのような状況でも適切な行動をとれるようにするには、普段の防災に関する勉強を学校での様々な場面で行っていく必要があると改めて感じた。例えば社会の授業で、ハザードマップについて勉強する機会がありますが、そのときに自分が生活する地域の被害想定や避難場所を知ることも大切だと思う。

初任者研修⑫「特別支援教育」

研修のねらい

- 特別支援教育の**基本的な考え方**、特別支援教育を進めていく上で大切な事柄、**特別支援教育の基礎基本**について理解する。
- 大阪府における支援教育と**八尾市における特別支援教育**について理解を深める。
- 発達障がい**の特性をふまえて子ども理解**を深め、**指導・支援の実践的な力**を高める。

令和5年8月1日(火)午後3時～午後5時に初任者研修⑫「特別支援教育」を行いました。講師は本センター戸田智規指導主事で研修テーマは「特別支援教育について」です。

← 研修で使用したスライド資料

<受講者感想>

- 子どもも保護者も不安を抱えているからこそ、目の前の行動だけでなく背景を考えて対応することの重要性を感じた。一人一人違うからこ

そ全員が安心して学習できる環境を整えていきたいと思う。

- ・特別支援教育は保護者との信頼関係の構築と連携が大切であり、保護者や支援が必要な児童に寄り添い、合理的配慮を考えていくことが大切である事を改めて学んだ。
- ・配慮が必要な児童生徒へのかかわり方について学ぶことは、すべての子どもたちとのかかわりにおいて大切なことだということを改めて感じました。固定観念に縛られるのではなく、行動の背景を想像して、合理的配慮とユニバーサルデザインの視点を大切に2学期からも子どもたちとかがわっていきこうと思う。

「社会」授業づくり研修

令和5年8月2日（水）午前9時30分～午前11時30分に「社会」授業づくり研修を行いました。講師は大阪体育大学岡崎均教授で、研修テーマは「社会科授業におけるICTと資料の効果的な活用について」です。

<受講者感想>

- ・社会科の授業づくりを行っていくうえで教科書の活用と、教科書では不十分な部分での追加資料の活用について学ぶことができた。
- ・非常にわかりやすく無駄のない、それでいて深い学びにつながる資料のセレクトと提示に感動した。
- ・今日の研修を受けて、社会科の授業も含めて、授業づくりの大切さを改めて感じた。ICTを活用した授業づくりが今後多くなってくることが予想されるが、何のためにICTを活用するのかなど目的を明確にしてICTを活用していきたい。
- ・良い授業というのがあって、それに近づいていくためにタブレットを活用していく、というのを基本的な考え方にしたいと思いました。

八尾を学ぶ研修



令和5年8月2日（水）午後2時～午後4時に八尾を学ぶ研修を竜華水みらいセンターで行いました。講師は大阪府東部流域下水道事務所企画グループ・大阪府東部流域下水道事務所 川俣管理センター・東洋メンテナンス株式会社の各担当の方です。研修テーマは「『下水道のせかいを知ろう』～竜華水みらいセンターの見学～」

← 水処理施設全景（この下に処理施設がある）

<受講者感想>

- ・実際に下水がきれいになっていく様子やにおいも自分で体感して、身近なものとして、考えるきっかけになると思います。
- ・実際に見たり、聞いたりすることは、とてもわかりやすい。深く知ることができると感じました。大人でもそのように感じるので、子どもたちにも本物を経験、体験できる機会をできるだけたくさん設けたいと思いました。
- ・私たちの生活排水が集まってくるとどんな状態なのか、どんなにおいなのか分かった。普通であれば見ることのできない施設を見学できた。また、大規模な商業施設の下がそのような施設になっていることは自分にとって発見である。



教育センター「情報公開コーナー」

教育センターB棟（東側）の2階に「情報公開コーナー」があります。各種教育関係図書・雑誌等を配架しています。もちろん「教科書センター」として八尾市で採択している教科書や他社の教科書もあります。研修等で来所された時に直接ご覧いただければ幸いです。教科書・その他書籍・雑誌等も2週間の貸し出しを行っております。今回は7月から8月に配架した雑誌の誌名と目次の一部を紹介いたします。

「指導と評価」（日本教育評価研究会）8月号

- ・特集1 協働×ICT
- ・特集2 学校教育と子どものウェルビーイング

「指導と評価」

連載「『叱る』を考える」第5回、「学校現場における〈叱る依存〉の落とし穴」

一般社団法人子ども青少年育成支援協会 村中直人氏 著

タイトルを見ただけで「ありがちなことかも知れない」と思いました。人は脳の働きで「規律・規範」を破ったものを叱りたいという欲求があり、これが満たされると満足が得られるというものです。日常的にこれを行っていると依存症になるらしいです。しかし、叱られている児童生徒の側から見ると、叱られたことによって得られるのは恐怖・不安・苦痛などネガティブな感情でしかありません。しかも脳の働きは低下します。考えなくなるということです。著者はすべての「叱る」を否定するものではありませんが、「叱る」ことに「依存」するのは効果的とは言えません。
(葎仲)

「道徳教育」（明治図書）8月号

- ・特集 目指せ！道徳の達人 もっと授業がうまくなる スゴ技&テクニク

「月刊学校教育相談」（ほんの森出版）8月号

- ・特集1 夏休み明けがづらい子
- ・特集2 教師が子どもに「謝る」とき

「特別支援教育研究」（全日本特別支援教育研究連盟編集・東洋館出版社）8月号

- ・特集 個別の指導計画の効果的活用

～指導・支援の個別最適化と連携・協働のために～

「初等教育資料」（文部科学省教育課程課・幼児教育課編集・東洋館出版社）8月号

- ・特集Ⅰ 資質・能力の育成に向けた授業づくり2

—思考力、判断力、表現力等の指導と評価を軸に①—

- ・特集Ⅱ [社会] 学習指導要領における指導のポイント
[問題解決のために話し合う]学習活動の充実

「初等教育資料」

・論説 「資質・能力の三つの柱の相互関係」 上智大学 那須正裕教授 著
三つの柱とは、①「知識及び技能」②「思考力、判断力、表現力等」③「学びに向かう力、人間性等」です。もちろん、相互関係でとらえることが大切です。②が発揮されるためには①の質が問題だということです。ひとつは、その知識が「活性化」されたものであること。必要があればいつでも問題解決のために活用できるものであるということ。知っているだけで活用できない知識は「不活性な知識」です。知識そのものに「活性」「不活性」があるわけではないので、学習の過程で「活性化」を意識しておく必要があります。この点、どの教科の授業であっても、実社会との関係性や有用性について紐づけておく必要があります。そのことで知識の「定着」と「活性化」に繋がります。那須教授は活性化された知識では条件（IF）節と行為（THEN）節が対をなしてこそ役立つ。それぞれが活性化された知識で、不活性な知識は役に立たないと述べられています。もうひとつは、「各教科の特質に応じた見方・考え方」について、教える側がどれだけ熟知しているかが問われます。これは実際の授業で「教科書を教えるのではなく、教科書で教える」と言われることにつながっているように思えます。「関係性」の本質は、そう簡単に見えてくるものではありませんが、安易な「通説」が形成されてしまうことすらあります。③は①と②を支えるもので「粘り強く学ぶ力」のことです。これを育むのは何より「わかる授業」と「適切な評価」です。多様な学習特性を持つ児童生徒に合わせて行うのは簡単ではありません。那須教授は、これが「個別最適な学び」が求められる所以であるとされています。逆に③は①②に支えられてもいます。①②がないと「やる気」はあっても取り組みません。つまり①②③は相互に関係しあっていて、授業者はこの関係性を理解し意識している必要があります。那須教授は心理学の知見も援用しながら説明をされています。（葭仲）

「中等教育資料」（文部科学省編集・学事出版）8月号

- ・特集Ⅰ 学校段階間の接続を踏まえた指導に向けて③
＜外国語、総合的な学習（探究）の時間、特別活動＞
- ・特集Ⅱ 学校全体で取り組む ESD の推進

教育科学「国語教育」（明治図書）8月号

- ・特集 あなたの知らない教材研究

教育科学「社会科教育」（明治図書）8月号

- ・特集 悩み解消！「本当に知りたい」社会科授業づくりのコツ

「新しい算数研究」（新算数教育研究会編集・東洋館出版社）8月号

- ・第1特集 図形領域における数学的な見方・考え方とその成長とは
- ・第2特集 図形の計量が入ることによって何をどう変えていくべきか



暑い日が続きますが、
空では雲の芸術が
繰り広げられています。

